

私たちのふるさと 座光寺



旧学校大石垣

「私たちのふるさと座光寺」編集委員会

まえがき

私たちのふるさと座光寺は、恵まれた自然環境の中で1万年以上前から人が住み、生活していました。古くは飯田下伊那地域の政治の中枢としての役割を担った郡衙跡があるなど伊那谷の中心として栄え、そこに培われた歴史・文化は子々孫々まで誇るべき財産として継承していく必要があります。

そこで、尊い自然、歴史、文化、そこに育った民俗など誇るべき財産への関心を地域全体に広めることにより、地域への愛着を深め、育てることを通して地域にふさわしい新たな文化の創造につながるものと思います。

編集委員会では、地域に関心を持っていただくための一歩として、座光寺に関する「知りたいこと」を児童・生徒の皆さんをはじめとして地域の大人の皆さんまで多くの方々から募集しました。編集委員会で検討して重複した項目もありましたので整理して下の5項目にまとめました。

- ・自然のすがた〈自然〉
- ・地域のあゆみ〈歴史〉
- ・人々の生活とすまい〈建造物〉
- ・土地と人々のくらし〈産業〉
- ・座光寺あれこれ〈地名・その他〉

この本が、学習の参考資料として、また、地域を理解するための1冊として各家庭で利用していただければ幸いに思います。

最後になりましたが、編集にご協力戴きました皆様に心からお礼を申し上げます。

平成21年2月



「私たちのふるさと座光寺」
編集委員長 大内智治



座光寺をつくる それぞれの風景

座光寺の上段は飯田市を代表するもも・なし・りんごなどの果樹園地帯です。

原地区を中心新しい営農プロジェクトも始まっています。写真是万才地区的果樹園。



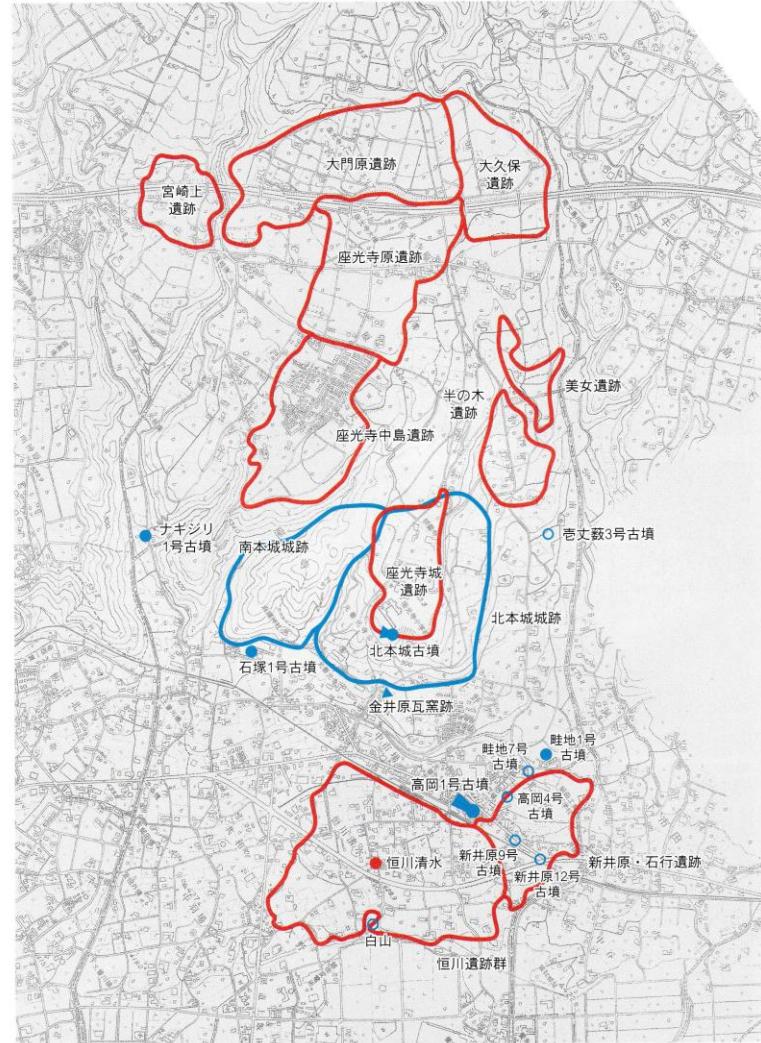
サンふじの果実
麻績の舞台桜はいまや
座光寺の顔になってい
ます。



座光寺の特徴の一つは地域の
中央を上下に分断する里山
(断崖崖)です。写真は唐沢
の小洞の景観。



水田の稲作は古くからの日本の
農業の中心でした。春の苗代づ
くりは米作りのはじまるとき。
秋の収穫に夢が膨らみます。
(5月中旬：宮ノ前にて)





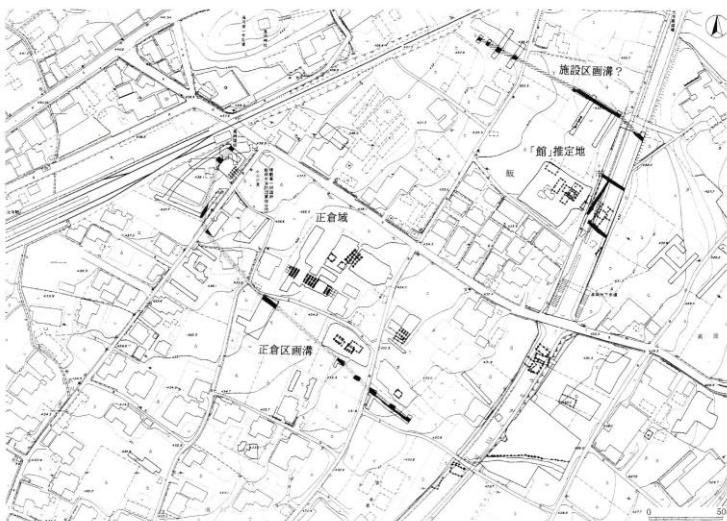
恒川清水：かつては湧きと水を湛えていた清水。古墳時代から平安時代にかけては伊那郡衙で働き暮らした役人たちの生活を支えていました。国道バイパス建設工事の頃から水が涸れはじめました。現在も水量は減ったままで。



新井原2号古墳の埴輪：円筒埴輪・朝顔型埴輪・壺型埴輪などが見つかっており、5世紀中頃より新しいと考えられます。馬の文化を受け入れたこととかかわりがあるのではないかとも言われています。

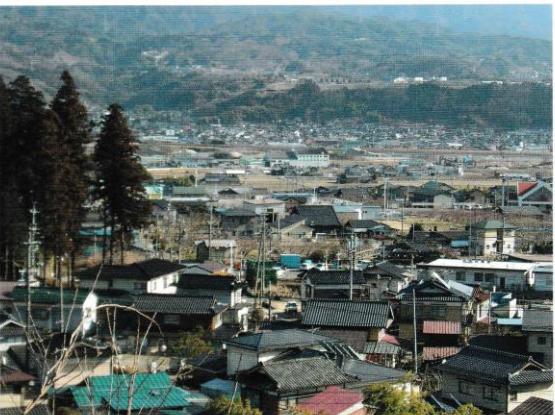


巨大な建物跡（奈良時代）：倉垣外地籍で見つかった13m四方の壁立ちの住居跡。帝具をはじめたくさん出土した土器類・須恵器が出土していて、特別な役割をもつた建物と考えられます。近くの住居跡からは和銅開珍銀鏡が出土しています。



古代伊那郡衙の推定される正倉城（飯田市教育委員会 2007より）

古代伊那郡衙は、飛鳥時代から平安時代に置かれた伊那郡の役所で、座光寺の恒川・高岡地籍を中心とした恒川遺跡群で役所の施設跡が見つかっています。この時代には、租（米）・庸（労役やそのかわりの品物）・調（地方の特産品）とよばれる租税が課せられていて、正倉は租を納めた倉で、つまりは溝で区切られていた。頭は国司など役人たちが泊まったところです。



上野から古代伊那郡衙の正倉城を望む（左端中央に高岡1号古墳）



鳩三社の妻飾り：龍や獅子・狛などの手の込んだ彫刻が見られます。



秋の風物詩 柿すだれの風景



伊那街道沿いの本棟：1874年（明治7年）建築 竹内家（原）



夜を彩る幻想的な竹宵（麻績神社にて）